



かつやま 7月臨時会・9月定例会報告
2021.10.28

議会だより No.81



↑
議会中継動画は
コチラから

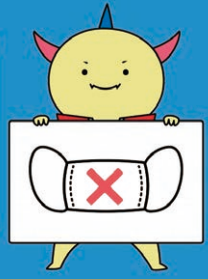
あなたの支援が必要です。

ヘルプカード



このカードの裏にお願いしたいことが書いてあります。

ワケ
理由あって
マスクを
つけられません



思いやりのある
社会へ



※マークの詳細は、14ページをご覧ください。

- 臨時会・定例会審議結果
詳細は 13ページ
- 特集「議員定数について」
詳細は 12ページ
- 一般質問
詳細は 5～11ページ
- 常任委員会・特別委員会報告
詳細は 3～5ページ
- 正・副議長・各委員会委員が
変わりました
詳細は 2ページ

9月

定例会
(9月7日～24日)

7月

臨時会
(7月30日)

正・副議長、各委員会委員が変わりました

9月定例会において、正・副議長および各委員会の構成が変わりました。

議長



乾 章俊
(元町2丁目)

市議当選4回。これまでに副議長、誘客拠点整備に関する特別委員長等を歴任されました。

副議長



吉田 清隆
(鹿谷町志田)

市議当選2回。これまでに建設産業委員長等を歴任されました。

委員会

市の仕事は幅広く、複雑で専門的になっており、専門的・能率的に詳しく審査するために、本会議における審査の予備的審査・調査期間として委員会が設置されています。

本市議会には常任、議会運営、特別の3種類の委員会があります。

常任委員会

本市議会には3つの常任委員会があり、市の仕事全体を分担し、関係する議案や請願・陳情等を審査します。任期は2年です。

※◎は委員長、○は副委員長

予算委員会 (16人)

一般会計予算に関する事項を所管します。

- ◎ 松山 信裕
- 安岡 孝一
- 他 全議員

総務文教厚生委員会 (8人)

未来創造課、総務課、監理・防災課、市民・税務課、環境政策課、福祉・児童課、健康長寿課、会計課、消防本部、議会事務局、教育委員会、選挙管理委員会、公平委員会、監査委員及び固定資産評価審査委員会に関する事項並びに他の常任委員会に属しない事項を所管します。

- ◎ 竹内 和順 富士根信子
- 山田 安信 近藤 栄紀
- 松本聖司郎 下道 恵子
- 中山 光平 乾 章俊

建設産業委員会 (8人)

商工観光・ふるさと創生課、ジオパークまちづくり課、都市建設課、建築営繕課、上下水道課、農林政策課、農業委員会に関する事項を所管します。

- ◎ 下牧 一郎 吉田 清隆
- 久保 幸治 丸山 忠男
- 安岡 孝一 松山 信裕
- 高間 清一 帰山 寿憲

議会運営委員会

議会の運営に関する事項を所管します。

- ◎ 丸山 忠男 松山 信裕
- 中山 光平 帰山 寿憲
- 安岡 孝一 山田 安信
- 竹内 和順

特別委員会

特定の事件の審査や調査をするため、必要がある場合に議会の議決により設置されます。

決算特別委員会 (6人)

決算に関する事項を所管します。

- ◎ 下道 恵子 安岡 孝一
- 吉田 清隆 富士根信子
- 中山 光平 久保 幸治

議会改革特別委員会 (16人)

議会活動等の諸問題に関する事項を所管します。

- ◎ 帰山 寿憲
- 富士根信子
- 他 全議員

総合計画特別委員会 (16人)

第6次勝山市総合計画に関する事項を所管します。

- ◎ 近藤 栄紀
- 高間 清一
- 他 全議員

議会広報特別委員会 (5人)

議会だよりの編集や議会の広報全般に関する事項を所管します。

- ◎ 下道 恵子 富士根信子
- 松本聖司郎 久保 幸治
- 中山 光平

大野・勝山地区広域行政事務組合議会議員

- 富士根信子 近藤 栄紀
- 竹内 和順 山田 安信
- 下牧 一郎

勝山・永平寺衛生管理組合議会議員

- 松本聖司郎 吉田 清隆
- 中山 光平 下道 恵子
- 久保 幸治

福井県後期高齢者医療広域連合議会議員

- 乾 章俊



● 総務文教厚生委員会

◆ 令和3年度山市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)

国保加入者のうち、出産された方へ一時金を補助する出産育児一時金の予算を想定より5人多い金額に、またコロナ禍でやむなく仕事を休業された方を対象に支給する傷病手当金を計上するために補正するものです。

委員：傷病手当金の支給について、どのように周知しているのか。

理事者：個人情報保護のため、行政では把握できないため、本制度を十分周知し、該当者から申請してもらいたい。すでに7月中に申請を1件受けている。

◆ 勝山市手数料条例の一部改正について

マイナンバー制度の法改正の施行により、マイナンバーカードの発行に係る手数料の徴収に

審査の結果、議案4件を全て可決し、陳情1件を採択としました。

かかる事務が市へ委託されたことによる改正で、マイナンバーカード再交付手数料800円の条文が削除されました。

なお、紛失等で再発行の場合、800円が必要なことに変わりはありません。

本案には反対討論がありましたが、採決の結果、賛成多数で原案のとおり可決しました。

◆ 地方財政の充実・強化を求める意見書採択について

陳情の趣旨は、来年度の政府予算と地方財政の検討では、コロナ禍による新たな行政需要等も把握して歳入・歳出を的確に積算し、地方財政の確立を目指すべき等11項目にわたる意見書を提出するものです。毎年、陳情書が提出されており、委員会では議論の結果採択とし、意見書を提出することとしました。

● 建設産業委員会

◆ 道の駅隣接地について

道の駅隣接地の工事や企業誘致の進捗状況について報告を受けました。

また、本区域の用途は工業地域に指定されていますが、市が考える恐竜渓谷かつやまエリアとしての滞在型観光の推進に沿った、進出する企業の計画を踏まえた用途の変更を検討していきたいとの説明がありました。

◆ 勝山市立野向町コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の制定について

野向町全体の持続的な活性化を目指すまちづくり活動の拠点施設とするため、勝山市立野向町コミュニティセンターを新たに設置し、施設の管理を行うため、本条例を制定したいとの説明がありました。

審査の結果、議案7件を全て可決しました。

◆ 勝山市下水道条例の一部改正について 他

今冬の大雪のような悪天候や災害などでメーターの点検が困難な場合には、メーターの点検を行わずに水量の認定を行えるようにするため等の理由で、3つの条例をそれぞれ改正したいとの説明がありました。

◆ かつやま恐竜の森(長尾山総合公園)再整備・管理運営事業について

Park-PFI制度を活用したかつやま恐竜の森の整備等については、現在、公募方針を示している段階で、事業者の提案により計画の将来像が明確にならないため、論点が絞れない状況ですが、議論の進展を図るために早急に理事者の考える制度の全体像が共有できる資料を提出するよう理事者に求めました。

● 予算委員会

審査の結果、令和3年度勝山市一般会計補正予算(第3号)を可決しました。

◆ 空き家管理代行サービスに対して助成を

相続等で市外にいながら空き家を所有している方が利用できる補助サービスを、市内の民間企業が行っています。

現在、空き家は市内に500軒ありますが、サービス利用者は1名だけです。環境整備の観点から、空き家周辺の草刈等は市職員が行っていますが、それも限界に来ており、サービスの利用を促す助成を行いたいとの説明がありました。

委員からは、「不慮の事故で管理ができなくなった方は対象にならないことから、そちらの補助制度も考えるべき。」「空き家利用の促進を図る根本的な解決法を考えていくべき。」との意見がありました。

◆ 除雪車をGPSで管理するシステムの導入

GPSを市が管理して、各除雪区域の状況を随時に判断し、除雪車運用の効率化を図ります。福井から大野までの幹線道路の状況も共有することができ、降雪時の市外への通勤や物資の流通にも寄与すると説明がありました。

委員からは、今年、まちなかに除雪車が入って行けず、車2台が3日間立ち往生したことがあったが、そういう事態に陥るようなことの無いよう、昼間の市内への運用にももっと目を向けて取り組むようにとの意見がありました。



◆ 新型コロナワクチン接種対策事業

これまでのワクチン接種事業を踏まえ、今後の広報のあり方について質疑がありました。

委員: ワクチン接種は任意であるから、その判断にかかる情報は、メリット、デメリットの両方を理解して判断できるよう努めなければならない。また子どものワクチン接種に不安を持つ親御さんからの言葉も多く届いており、その配慮も必要だ。

理事者: いただいた意見を参考に、現在、ホームページの情報量を増やして掲載している。

委員: 見解の違いから、家庭内で接種済みの方と未接種の方の^{あつれき}軋轢もでている。ネットを利用できる世代だけの問題ではない。紙面で概要を載せ、詳しい内容はネットを利用する等の工夫が必要だ。

◆ 指定管理料(債務負担行為補正)

勝山市ジオターミナル、勝山市道の駅「恐竜渓谷かつやま」、はたや記念館「ゆめおーれ勝山」の指定管理料における債務負担行為補正について、理事者から今までの指定管理料の実績や積算が示されました。

委員からは、数年コロナ感染の影響で、観光客などの減が続くと予想されることもあり、指定管理料の見直しを含め、施設によっては以前の直営方式に戻すなど、指定管理制度を使うことの妥当性など再精査する必要があるのではとの活発な議論が交わされました。

(債務負担行為については、過去の議会だよりをご覧ください。)



議会だより 第77号

● 議会改革特別委員会

委員会では、主に議員定数について議論しました。

各種団体との意見交換会の開催については、引き続き粘り強く申し入れを行っていくことを確認しました。また、議員一人一人に様々な考えがあることや課題等も多岐にわたることから、議員全員に無記名によるアンケート等を行い、論点整理をした上でさらに議論を進め、意見交換会に臨んでいくこととなりました。

今後は、毎月委員会を開き、本年度中に勝山市議会としての見解を示していきます。

※議員定数の特集は、12ページに掲載。

● 総合計画特別委員会

理事者から、7月から8月にかけて実施した市民意見交換会の報告や、第6次勝山市総合計画の骨子案、今後のスケジュールについて説明がありました。

委員からは、「若い方や女性からも意見をいただけるよう工夫するべき。」「市民の意見に対して、行政としての課題のすり合わせを全庁的に検討し、骨子案を見て10年後の勝山市が明確に想像できるよう、表現方法を工夫するとともに、勝山市の良さや魅力もしっかり発信していくべき。」など、多くの提案がありました。

一般質問Q&A

新風会・公明
竹内和順
議員



○ コロナ禍から見る子ども・子育て支援について
○ デジタル庁発足に伴う情報システムについて

他



問 「福井県緊急事態宣言」発出前から、夏休みの小学生のプール開放ができなかったのはなぜか。学校ごとの裁量に任せている県内の市もあった。また、この宣言期間の体育施設の利用制限について、大人の利用は認め、子どもの利用は禁止としたのはなぜか。

答 夏季休業中のプール開放については、場所の分散や時間差の設定も検討したが、全国的にワクチン接種のできない12歳未満の子どもへの危機管理の面から、大人数が集まる機会は少ない方がよいと判断し、校長会とも諮り、中止とした。

ワクチン接種の見通しが立っていない子どもを新型コロナウイルスから守ることを最優先し、子どもの体育施設の利用については、制限をお願いした。

問 国では、9月からデジタル庁が発足した。これまでも、行政デジタル化はe-Japan戦略で掲げていたが、縦割りで前例踏襲を重んじる行政の姿は変わらず、停滞が続いてきた。

自治体DXを全庁を巻き込んで推進するには、自治体DXに関する市長の理解が必須で、部門横断的な組織づくりが必要ではないか。

答 DXを推進するためには、単に紙をデジタルに置き換えるだけでなく、これまでの慣習にとらわれず、職員の意識改革によって各分野での行政事務を見直す必要がある。失敗を恐れないチャレンジに寛容な雰囲気づくりを心がけ、市長をトップとした全庁体制で取り組んでいく。

また、ICT教育アドバイザーやかつやま創生プロモーター等を活用して、最新の課題解決方法を取り入れていく。

※かつやま創生プロモーター
関東圏・関西圏を中心に、勝山市への企業誘致を推進する専門員



安岡孝一 議員
新風会・公明

○ 「生理貧困」に寄り添う支援について
○ 人口減少でも充実して活きられる縮充のまちづくりについて 他

問 長引くコロナ禍で、経済的な理由で生理用品を買えない「生理の貧困」が社会問題化している。困窮する女性や子どもを支援するため、生理用品の無償配布を通して、困っている女性の背景に向き合い、悩みに寄り添う支援を充実させることが大切ではないか。

答 コロナ禍による経済的な理由に加え、虐待やネグレクト等、家庭環境の深刻さが背景にあると思われる。

市では「生理の貧困」だけに特化した支援ではなく、様々な問題を抱える家庭を要保護児童対策協議会で取り上げ、要保護家庭として把握し、支援している。

現在、生理用品が買えないといった相談はないが、必要な支援が受けられるよう、各種相談窓口に関する情報発信や各種支援制度を掲載したパンフレットの配布を行っている。

なお、市内の小・中・高校では、生理用品を忘れたり、困りごとがあれば保健室で対応している。

問 日本の地方は今、どこも少子高齢化に人口減少という課題に直面している。そこで、聞き慣れない言葉だが「縮充」という考え方がある。これは、「人口こそ減っているものの、住んでいる人々はむしろ充実している」ことが可能であるとの考えである。

アフターコロナを見据え、例えば人口減少が進んでも、一人一人が充実した生活を送ることができるよう、まちづくりに取り組んではどうか。

答 縮小しながらも充実した地域をつくり、人生を送るためには、年齢、性別等の分け隔てない多くの市民等の参画の機会と実践について地域の中で真剣に取り組み、行政はそれに対してしっかりと支援していくことが重要であると考えている。

それによって、まちに楽しさが生まれ、やがては移住・定住促進にも繋がってくると考えている。



久保幸治 議員
日本共産党

○ キッチンカー補助制度について
○ 国民健康保険税について 他

問 この補助制度は、補助率が8割、最大500万円で、10名の申請者に総額3900万円（最大500万円の申請者2名、最小180万円の申請者1名）を補助している。市内多くのコロナ禍で苦しむ飲食店やその他の事業者にとって、この政策は「コロナ対策として公平で有効なのか。本制度の申請内容の説明と進捗状況、および事業の検証作業の有無を伺う。

答 申請者は、商工会議所や金融機関の指導のもと補助申請書や事業計画書を提出し、その事業効果や継続性等を商業活性化アドバイザーによって審査・評価され、必要に応じて事業内容を再検討したうえで見積書等を添付し、正式に申請することとなる。現在、全ての申請者の交付決定を終え、申請者はキッチンカーの製作を行っている。

本事業の補助要件として、令和4年度から3年間の取組実施状況や経営状況等の報告書の提出をお願いしており、その経過報告書をもって検証をしていくこととなる。

問 この3年間、加入者への負担軽減の質問には毎回、将来予想される保険税率の上昇を抑制するため使用すると市は答弁してきたが、現在、自営業者は新型コロナウイルスの影響で売り上げが激減し、高い国民健康保険税に苦しんでいる。

国には公費の増額を要請するとともに、国保基金の一部を、早急な加入者救済対応として、加入者1人当たり1万円を減額するために使用できないか。

答 国民健康保険の財政は、団塊世代が75歳以上となる令和7年度までの間、加入者数の減少や加入者の高齢化割合の変化等で、保険税収入や前期高齢者交付金の減少が予想される。反面、一人当たりの保険給付額や後期高齢者支援金の増加が予想されるため、加入者の負担増加が懸念されている。

平成30年度の制度改正後、基金を取り崩さず繰越金を活用して加入者の負担増加の抑制を図ってきたが、令和4年度からは一人当たりの負担が急激に増加することが確実視されており、必然的に基金を取り崩して加入者の負担軽減を図っていかねばならないと考えている。

一般質問Q&A

○市内各区の人口減少に伴う弊害について ○教職員の発言について 他

新風会・公明
松本聖司郎 議員



問 市内の、特に村部では区民の減少により、区の活動の一人当たりの負担増、一世帯当たりの区費を高くせざるを得ない区が出てきている。

答 今後もこういった区は増え、区費や区の活動量の格差が発生し、また離れていくという悪循環が加速すると予想されるが、今後の対策について伺う。

問 市内10地区での市民意見交換会でも、区の存続について不安視する声があった。現在、市内に112の区があるが、市の行政区であるとともに、長年にわたり伝統・文化・歴史を培ってきた自然発生的な地域コミュニティとしての側面もある。

答 行政との関係のことで負担になることがあれば、運営が難しくなっている小規模な区には、行政との関係だけを近隣の区に委ねる方式や、複数の区が連携して一つの区になる方式等、文化伝統を後世に残しながら負担となる部分の軽減を図る方法を研究し、実態に応じた区のあり方、持続可能な地域コミュニティの考え方について、第6次勝山市総合計画において提案していきたい。



問 小学生のお子さんがじめじめに遭い、その際、教職員から不適切と捉えられる発言があり、保護者が憤慨したとの相談を受けた。

答 市はこういう事案に対してどのような対策を取っているのか。

問 議員ご指摘の発言について該当校に確認し、その発言で保護者が不愉快な気持ちになったのであれば配慮に欠けていたことになり、教育委員会から、教職員は保護者や児童・生徒の置かれている状況を考えて発言するよう指導を行った。

一般質問Q&A

○大手坂水路並びに旧勝山町の網状水路系統について ○マイナンバーカードの普及について 他

市政会
丸山忠男 議員



問 今年1月大雪の際に本町地区で起きた6件の家屋への浸水原因は、旧勝山町の網状水路系統に上流からの投雪が2号水路で詰まり、坂道に溢れ出したことによるものと思われる。

答 今後このような浸水被害を起さないためには、水路の改善と流雪規制が不可欠である。また、融雪装置が機能しなかった点、除雪されていない道路が見えられた事案について、理事者の見解を伺う。

問 令和3年1月の大雪の際の浸水被害を踏まえ、水路の水量を減らす対策や新規水路の設置について、関係者と協議し、実施していく。また、流雪時間帯の整理等、市の対策と地元区の対応について協議していく。

答 融雪装置や除雪に関する課題については、次の3点を実施していきたい。

- ・融雪設備を遠方監視し、融雪ポンプを強制運転できるように改修する。
- ・融雪路線に監視カメラを設置し、遠方監視する。
- ・除雪車に衛星利用測位システム（GPS）を搭載して、作業状況を管理する。

問 国は、マイナンバーカードの普及に向けて最大5000円のポイントを還元する事業を行い、県も独自に県産品のセットを贈呈するなどしている。

答 勝山市の普及状況と今後の対策について理事者の見解を伺う。

問 8月末現在の勝山市の普及率は、県内トップの45.58%で、年内に50%を達成できる見込みである。

答 申請者に3000円分の電子マネー等を贈呈する市独自の普及促進策等に加え、家庭へ職員が訪問し個別に申請対応をするサービスを開始していきたい。



下道恵子
市議会議員



○ 中学校再編について
○ 「祖父母の育児休暇取得」について 他

問 現在の中学校の給食は、市内の業者に委託し、弁当を配達してもらっているが、再編して新中学校1校となる場合、小学校のように給食室を設置して給食を出すことはできないか。

また、魅力化の1つとして、勝山高校の生徒にも給食を出すことはできないか。

答 議員ご提案の自校式給食として、それを高校生にも提供できれば、中学生や高校生、その保護者にも歓迎されると思われる。しかし、その施設整備費用や調理師の確保等の大きな課題があるため、勝山高校の意見も聞きながら検討していきたい。



問 仕事を休めない両親に代わり、保育園送迎など孫守りのために仕事を辞めたり、同僚に気兼ねしながら有給休暇を使っている祖父母のために、市役所で「祖父母の育児休暇制度」を作り、市内に広めてほしい。

答 地方公務員の育児休業等に関する法律では、休業は子を養育する場合に限られ、孫を対象としていない。また、当市職員におけるそのような休暇制度もない。

県は、平成27年に祖父母の育児休暇取得奨励金制度を創設したが、現在は廃止となり、男性の育児休業の取得促進や不妊治療のための休暇取得促進など視点を変えて奨励金制度を実施している。

まずはシニア世代を含め、あらゆる世代の職員が休暇を取得しやすい職場の雰囲気づくりや、業務遂行における相互応援体制の確保を行い、祖父母を対象とした育児休暇については、他市の状況や職員組合などの協議の中で研究していく。

下牧一郎
新風会・公明市議会議員



○ 山村留学について
○ 防災について 他

問 山村留学のため当市に來られた親子に対し、アパートや借家等の家賃を全額補助し、山村留学を全面的に応援してはどうか。

また、子どもだけの場合（二里親式の留学）には、5年以上里親になつていただくことを条件に自宅改修費の50%（最高300万円まで）の補助を出してはどうか。

答 北谷地区のかつやま子ども村小中学校への入学を希望し、移住を検討するご家族が毎年いることから、山村留学の可能性は十分あると考える。

まずは、市出身者などにターゲットを絞りながら本市の豊かな自然や充実した子育て支援策等、暮らしやすい環境をしっかりとPRし、UITターン推進の強化を図ってきたい。

今後、山村留学について先進地の事例を研究し、UITターンした方の実態や移住希望者のニーズを調査し、家賃支援制度や住宅改修に係る補助制度等の新たな補助制度の創設を検討していく。

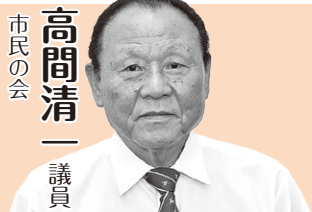
問 近年の異常気象（豪雨豪雪）は想定を超えている。そこで、河川監視カメラを地域住民の意見を参考にし、希望する場所に設置してはどうか。最近のカメラは、動画や写真をその地域の防災士や区長に送ることがができる仕様になっているので、早急に検討すべきだ。

答 県に対して県管理河川の河川監視カメラの増設を要望する。また、市管理河川の監視には、今冬から市道融雪路線の監視用として導入する監視カメラを活用する予定で、春から秋は河川の監視用として、冬は市道の監視用として1年を通して活用していきたい。

カメラの設置場所は、市民の自主的な避難判断を促し、いち早い避難行動に繋がる観点から最適な箇所を、区長、消防団員等と協議して決定したい。



○ 新型コロナウイルス対策について



高間清一
市民の会
議員

問 非常に感染力を持つデルタ株は、通常のウイルスよりも2倍から3倍の感染力を持っている。

答 第5波だけで10000人を超えている福井県。9月7日現在、ワクチン接種状況は、12歳以上の対象者約70万人のうち、2回接種した人は約41万人、1回接種した人は約50万人。

3日の発表では、感染者の約94%が未接種で、そのうち30歳までが64%を占め、20代の感染者割合26%が最も多かった。

65歳以上の人が9割近く2回の接種を終えた一方、40歳未満の人の割合は4割に満たない中、早く接種予約するようお願しているが、次の点について質問したい。

- ① 勝山市の現状はどうか。
- ② コロナ経済対策として飲食店等の支援はどうか。
- ③ 希望者の接種後の全体的な緩和はどうか。

答 ① 9月13日現在、12歳以上の対象者2万719人のうち、1回目を接種した人は1万6801人で81.1%、2回目を接種した人は1万5452人で74.5%。40歳未満では、1回目を接種した人は59.6%、2回目を接種した人は44.9%となっている。

② 食事代から2000円を割り引く「お座敷体験クーポン券」は、9月末まで期間を延長して実施している。また、国や県の動向を注視しながら、現在発行を中断している30%のプレミアム付きお食事券の発行について、準備を進めている。

その他、新型コロナウイルス感染症対策資金償還支援補助金の実施や、電子マネー決済ポイント還元キャンペーン、ワクチン接種会場での観光バス活用等、飲食店以外への業種にも支援を行っている。

③ 政府は、ワクチン接種の進展を見据え、9月9日に行動宣言緩和に向けた「基本的方向性」を決定した。希望者へのワクチン接種完了を目指す11月ごろを念頭に、接種証明やPCR検査等の陰性証明を活用した緊急事態宣言下でも飲食店の酒類提供や県をまたぐ移動の容認、大規模イベントの人数制限も緩和する内容で、制限緩和は段階的に行い、国民的な議論を踏まえ具体化を進めていくとしている。

勝山市においても、引き続き国、県の方針を注視して適切に対応していく。

○ 勝山市立中学校再編計画(案)について
○ 自然と歴史文化遺産を活かしたまちづくり



富士根信子
市民の会
議員

問 ① 新中学校独自の体育館とグラウンドの設置、成器西小学校の連携での新中学校建設について伺う。

答 ② 県会議員が併設について市が望んでいるかのように県会で質問したのはどうでしょうか。

答 ① 中高併設に伴う体育館とグラウンドについては、市民意見交換会等で高志中高校との比較から面積や生徒数的に可能だが、工夫と調整は必要となる旨の説明をしてきており、議員ご提案の中学校独自の体育館の設置やグラウンドの保有は困難と考える。

また、成器西小学校と勤労者体育館跡地を活用した新中学校の提案は、その中で中学校専用の体育館やグラウンドの整備が不可能である等の問題があると考えます。

② 議員本人は、県における検討状況について質問したが、決まるとの構想が勝山市で決定したとの前提での質問ではなかったと聞いている。

問 勝山市指定文化財史跡小笠原家累代廟所の修繕・保全・今後の活用研究について、市の見解を伺う。

答 小笠原家の廟所がある開善寺の管理者にお聞きすると、長年にわたる市内の障害者グループや観光ガイド、地域の方々によるボランティア清掃活動等により、江戸時代からの景観が保たれているという。

基本的に全ての文化財は、所有者または管理者の責任において管理され、修繕が必要な場合は、勝山市文化財補助金の活用を提案している。

市では、小笠原家の廟所が開善寺の管理下にあると同時に個人の墓としての位置付けがある現状を踏まえ、今後、管理者や関係団体等と廟所の修繕・保全・活用について協議を進めていきたい。



一般質問Q&A

新風会・公明
松山信裕
議員



○ まちづくりについて ○ 勝山市の防災関係について 他

問 第6次勝山市総合計画の策定において、10年に1度の良い機会と捉え、未来を担う子どもたちが市政に興味を持ち、将来のまちづくりに積極的に参加してもらうことよって※シビックプライドの醸成を目的に、子どもたちに分かりやすくした「子ども版総合計画」の策定を提案したい。

答 子ども版総合計画については、変化が激しい社会において、これまで以上に必要とされる「問題発見・解決力」を養うツールとして市内小・中学校で活用できる内容にするとともに、将来の勝山市を担う子どもたちのまちづくりへの参画意識の醸成を図るため、第6次勝山市総合計画がスタートする令和4年度初めには作成、配付したい。

※シビックプライド：都市に対する市民の誇りや愛着だけでなく、まちをより良くするために自分自身に関わる当事者意識に基づき自負心

問 各地区自主防災組織の活動状況や様々な取り組みについて情報集約するなど、自主防災組織間で情報共有ができる体制を整え、適正な活動促進・育成・防災訓練などを進めて、地域全体の防災力を底上げし、組織力の向上を図ることを目的に、自主防災組織連絡協議会を創設すべきだ。

答 現在の自主防災組織の数は、全112地区の内65地区68組織で、組織率が58%に留まっている。組織率の向上に努めるとともに、各地区区長や県防災士会等と協議を進め、来年度中の自主防災組織連絡協議会設立に努めたい。



一般質問Q&A

新風会・公明
吉田清隆
議員



○ 新中学校の教室の空間整備について ○ 公共施設の改修計画状況について 他

問 文部科学省は、新たな時代の学びに合わせ、学校施設のあり方を見直し、教室を広くし、多目的スペースを設けること等を提言した。県内でも教室形態が大きく変化した学校があり、現在の教室等の配置と大きな空間に驚くほどの違いがある。今後の中学校再編に向けて、文科省の推奨に沿った計画や他学校への視察などについて伺う。

答 中学校の再編計画が認められた後、専門家等を交えた建設部会等を立ち上げ、施設機能等の検討に入り、プロポーザルを通じた新たな提案を盛り込んだ設計をしていきたい。

また、先進地視察については福井市の明道中学校や敦賀市の角鹿小中学校を視察しているが、今後必要に応じて検討していく。

問 「勝山市公共施設個別施設計画」には、平成30年度から35年度までの大規模改修計画や修繕計画の費用が記載されているが、令和3年度の修繕想定金額と当初予算では減額となっている。この計画の過去の改修や修繕内容、40年後までの修繕等の計画の進捗状況を伺う。

また、中学校再編後の現中学校の活用について、現状で具体的な案があれば伺う。

答 この計画では、各施設構造や規模等から単純に割り出した金額だが、40年間で約1055億円の施設更新等の費用が試算されている。

また計画の中で、各施設の令和7年までの修繕計画を作成し、毎年施設管理者と市の建築技師が施設を点検しているが、40年間の修繕計画を作成し、毎年更新していくことは、作業量が膨大で非常に困難と考える。

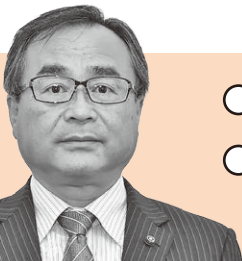
現状の修繕計画をその都度修正し、各施設ごとの施設力ルテを活用しながら適切な管理に努めたい。

なお、国の予算の前倒し等により改修・修繕を早める場合もあり、当初の修繕計画と最新の修繕計画で金額の増減が生じるが、予算の関係で必要な修繕を行わないことはない。

中学校再編後の3中学校の跡地の活用案は、現時点ではない。地権者や地元の見解、市の考え方を交えて、今後の対応について協議していく。

日本共産党

山田安信
議員



○ 恐竜の森のパークPFIについて
○ 中学校の統廃合について 他

問 ①パークPFIは、来園者を恐竜の森に囲い込み、市街地誘客と矛盾する危険がある。ホテルは集客力を利用するだけだが、新たに集客を増やす事業はあるのか。
②議会が、契約書を専門家の意見も聴取してチェックでき、仮契約を否決しても賠償責任を負わない制度にすべきだ。

答 ①大型連休や夏休み等の繁忙期と冬期間等の閑散期では来園者数に大きな差があり、民間事業者には年間を通じて賑わいを創出するよう、宿泊機能や飲食物販機能、遊戯機能の整備を求めている。県立恐竜博物館の来館者だけでなく、新たな遊戯機能を目的とした来園者の宿泊への誘導や、宿泊が目的となるような施設整備、有料イベントや市内施設との連携等の提案を求めることで、新たな需要の創出に繋がると期待している。

②今後、選定された事業者との協議や学識経験者の指導を踏まえ、損害賠償等も含め、市が不利益を被ることのない内容の契約を締結するが、仮の段階で議会にお示しするので、確認、審議をお願いしたい。

問 ①県教委は、少子化の進行により県立高校を1学年4学級にこだわらず、地域のためにできる限り存続させることが望ましいと方針転換した。高校でさえ適正規模にこだわらないのに、なぜ勝山市は中学校で固執するのか。
②県高教組の役員は「勝山高校での中学校併設・連携は聞いていない」としている。県はどこでこの機関で検討したのか。

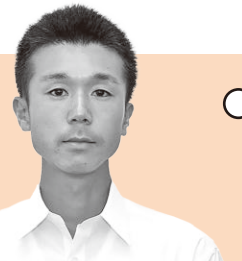
答 ①県の高問協での方針変更は、積極的に学級数の少ない高校を目指すものではなく、その高校が当該自治体にとって大切な存在であることに鑑み、1学年3学級になっても、地元自治体と連携協力して存続することが望ましいとしたもの。

勝山市の中学校再編は、市内中学生にとってより良い教育環境を目指すものとするもので、県立高校の事情とは異なると考える。

②勝山市中学校再編検討委員会の答申に基づき、市から県に積極的な検討を要望し、それから市教委と県教委との話し合いに入った。県教委としては、全く新たな事業開始を決定するのではなく、特別な機関での協議は行っていないと聞いている。

市民の会

中山光平
議員



○ 新型コロナウイルスワクチンの意義と
新型コロナウイルス対応の見直し提案

問 ①ワクチン接種で感染予防ができていない。また、「ワクチン接種していない世代でも軽症化が進んでいる」というデータを示し説明したが、市からは提示されない。厚生労働省のデータは信憑性がないということか。

②ウイルスとワクチンの年齢別のリスクデータや、ワクチン非接種であっても99%以上の人が感染しない、というワクチン有効率の説明や、発症者の追跡データや新型コロナウイルスワクチンの臨床試験は継続中という事実等、データを積極的に市民に提示すべきだ。

③市民にデータを提示しないことで、ワクチン接種者と非接種者で軋轢にもなっているが、市はワクチン接種に関して強制や圧力をかけていないか。

④コロナ禍におけるイベント等の基準が曖昧で、市民の活動意欲を削いでいる。納得できる基準を示すべきだ。

答 ①国や県等の公的機関による信憑性のある情報をできるだけ分かりやすく市民に伝えることは重要で、市のホームページから厚生労働省の「データからわかる新型コロナウイルス感染症情報」にリンクしている。

②市民にワクチン接種を推奨するため、国や県からのワクチンに関する情報を基に市広報等で情報発信に努めているが、市民には国からの医学的知見に沿った情報や福井県内の感染状況を踏まえた知見等も参考にして接種の判断をお願いしたい。

③ワクチン接種は強制ではなく、あくまで本人の意思に基づいて接種を受けるもので、接種を強制したり、接種していない人や受けることができない人に対して差別的な扱いをしないよう周知している。

④市の公共施設利用や市主催行事等実施の可否は、福井県新型コロナウイルス感染症対策本部会議で決定された対応を基本とし、近隣市町の対応も参考にして勝山市新型コロナウイルス感染症対策本部で決定している。

特集

議員定数について

議会改革特別委員会では、議員定数について検討事項として議論しています。議員間でも様々な意見がありますが、市議会としての方向性を示せるように、引き続き議論を重ねていきます。

ここでは、現在16名の議員の議論の中で出た意見の一部を掲載します。



◆ 議員の意見（議員定数について、各議員の意見を傾向ごとに分けて表にしました。）

項目	削減すべき	維持すべき
市の人口	市の人口減少を見据え減らすべき。	
市の財政	厳しい状況が続く中、議会も努力すべき。	
他市と合わせる	県内他市が削減しているので、同じ方向性を持つべき。	議員定数は、各自治体の考え方を持つべきで、他市町に合わせる必要はない。
市民の声	区長連合会からは削減を望む意見がある。	行政、議会をよく知る市民からは「簡単に減らすべきではない」との意見がある。
議会運営		議員定数を削減しても全体の仕事量は変わらないので、チェック機能が不十分になる。
新規の立候補者		定数削減は、間口を狭め、候補者不足の原因につながる恐れがある。

◆ その他

- 人口、予算額の減少、勤務時間、態度、議会の役割など定数削減の妥当性を考えるべき。
- 市民の声を議会に届けるために定数を増やし、選挙時の条件や報酬などの議論が必要。
- 委員会の編成など議会のあり方の議論が必要。
- 扶養手当等の福利厚生や報酬を充実させるべき。
- 若者や女性の候補者が少ない原因を分析し、対策するべき。

臨時会審議結果一覧

議案番号	議 案 名	付託委員会	議決結果
議案第27号	多目的消防ポンプ自動車の購入契約の締結について	総務文教厚生	可 決
議案第28号	道の駅「恐竜渓谷かつやま」機能強化工事施工にかかる協定の変更について	建設産業	可 決

定例会審議結果一覧

★ 議員提出議案
 ■ 表決を行ったもの

議案番号	議 案 名	付託委員会	議決結果
—	「議案第29号 令和3年度勝山市一般会計補正予算（第3号）」の訂正の件	—	承 認
議案第29号	令和3年度勝山市一般会計補正予算（第3号）	予 算	可 決
議案第30号	令和3年度勝山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	総務文教厚生	可 決
議案第31号	令和3年度勝山市介護保険特別会計補正予算（第1号）	総務文教厚生	可 決
議案第32号	令和3年度勝山市下水道事業特別会計補正予算（第1号）	建設産業	可 決
議案第33号	令和3年度勝山市農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号）	建設産業	可 決
議案第34号	令和3年度勝山市水道事業会計補正予算（第1号）	建設産業	可 決
議案第35号	勝山市個人情報保護条例の一部改正について	総務文教厚生	可 決
議案第36号	勝山市手数料条例の一部改正について	総務文教厚生	可 決
議案第37号	勝山市下水道条例の一部改正について	建設産業	可 決
議案第38号	勝山市農業集落排水処理施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について	建設産業	可 決
議案第39号	勝山市水道事業給水条例の一部改正について	建設産業	可 決
議案第40号	勝山市立野向町コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例の制定について	建設産業	可 決
認定第1号	令和2年度勝山市歳入歳出決算の認定について	決算特別	継続審査
認定第2号	令和2年度勝山市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について	決算特別	継続審査
意見書案第2号★	コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書について	—	可 決
意見書案第3号★	地方財政の充実・強化を求める意見書について	—	可 決
意見書案第4号★	辺野古新基地建設の中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転について国民的議論を行い、憲法に基づき公正かつ民主的に解決することを求める意見書	—	否 決
議案第41号	勝山市公平委員会委員の選任について	—	同 意
議案第42号	勝山市固定資産評価審査委員会委員の選任について	—	同 意
諮問第1号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	—	異議がない
諮問第2号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	—	異議がない

◆ 請願・陳情

受理番号	要 旨	付託委員会	議決結果
陳情第4号	地方財政の充実・強化を求める意見書採択について	総務文教厚生	採 択

◆ 表決結果

※意見が分かれた案件については、電子表決システムを使って記名投票を行っています。

議 案 番 号	総投票数	投票数		松本聖司郎	中山光平	安岡孝一	富士根信子	高間清一	久保幸治	竹内和順	吉田清隆	下牧一郎	近藤栄紀	下道恵子	丸山忠男	松山信裕	帰山寿憲	山田安信	乾章俊
		賛成票	反対票																
議案第29号	15	13	2	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	議長
議案第36号	15	13	2	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	議長
意見書案第4号	15	2	13	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	議長

○=賛成、×=反対、=不在、議長=議長職（通常は採決に加わらない）



思いやりのある社会へ

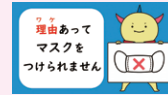
世の中には、様々な意思表示マークがあります。これらは、事情のある方が身に付けることで、周りの人々に向けて“助けを求める”や“理解を求める”といった意味のメッセージを伝えています。困っている方を見捨てず、思いやりのある社会を構築するために、市議会としても引き続き邁進していきます。

ヘルプマーク



内部障がいや妊娠初期など、外見から分かりにくくても援助や配慮の必要な方が身に付けています。

マスクをつけられません



障がいや知覚過敏、病気などでマスク着用が困難な方が身に付けています。

マタニティマーク



妊産婦の方が交通機関を利用するときなどに身に付けています。

介護マーク



介護者が介護のためにトイレに付き添うときなどに身に付けています。

※これら以外にも様々な意思表示マークがあります。

議会日誌

- 7月25日(日) 福井県北陸新幹線建設促進同盟会総会
- 28日(水) Park-PFI制度に関する意見交換会
- 8月 4日(水) 議会広報特別委員会
- 10日(火) 福井県市議会議長会定期総会
- 13日(金) 令和3年度全国高校総合体育大会 総合開会式
- 20日(金) 令和3年度全国高校総合体育大会 山岳競技開会式
- 27日(金) 総務文教厚生委員会、全員協議会、議会運営委員会、議会広報特別委員会
- 9月 1日(水) 令和3年度勝山市表彰式
- 7日(火) 本会議、全員協議会
- 13日(月) 本会議(一般質問)、議会運営委員会
- 14日(火) 本会議(一般質問)、議会広報特別委員会
- 15日(水) 総務文教厚生委員会
- 16日(木) 建設産業委員会
- 17日(金) 予算委員会、議会広報特別委員会
- 21日(火) 秋の交通安全県民運動、議会改革特別委員会、議会運営委員会、総合計画特別委員会
- 24日(金) 総務文教厚生委員会、建設産業委員会、議会運営委員会、全員協議会、本会議
- 10月 1日(金) 共同募金運動オープニングセレモニー
- 7日(木) 高齢者連合会運動会
- 8日(金) 総務文教厚生委員会
- 11日(月) 議会広報特別委員会、建設産業委員会
- 12日(火) 決算特別委員会
- 13日(水) 秋季消防訓練
- 15日(金) 決算特別委員会
- 18日(月) 議会広報特別委員会
- 19日(火) 決算特別委員会
- 25日(月) 福井県市町議会合同研修会(鯖江市)
- 26日(火) 福井県市議会議長会による県知事要望

議会広報Facebookフェイスブックにお寄せ頂いたメッセージ

令和3年6月から“より身近な議会”を目指して公式Facebookを運用しています。

当Facebookでは、議会からの情報提供だけでなく、メッセージも受け付けています。ここでは、その一部をご紹介します。

- 新型コロナワクチンを自分や子どもに接種することが不安。もっと情報を出してほしい。
- 厚生労働省等で最新の新型コロナの情報公表されているのに、行政の対応に変化がない。議会からも行政に働きかけてほしい。
- なぜ広報委員会のFacebookにコメントすることができないのか。

いただいたご意見は、議会でも共有するとともに、各議員からも一般質問や委員会など議論の場を通じて、行政機関に意見や情報を伝えていきます。今後ともご意見をお寄せください。

※全てのメッセージに対し、広報委員会から回答できない場合がありますのでご了承ください。

《議会広報特別委員会》

委員長 下道恵子 副委員長 松本聖司郎 中山光平 富士根信子 久保幸治

発行：勝山市議会 〒911-8501 福井県勝山市元町1丁目1-1 TEL 0779-88-8100(直通)

編集：議会広報特別委員会 <URLアドレス> <http://www.city.katsuyama.fukui.jp/>

<Eメールアドレス> gikai@city.katsuyama.lg.jp



勝山市議会広報委員会
Facebook